



平成20年度
出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり

— おゆみ野編 —

平成20年7月
財団法人 千葉県教育振興財団

ちば

平成20年度
出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり

おゆみ野編

平成20年7月

財団法人 千葉県教育振興財団

開催にあたって

平成20年度の巡回展「房総発掘ものがたり」は、これまでの展示とは趣を変え、発掘調査の終了した「おゆみ野地区」を取り上げることとしました。現在、おゆみ野地区は緑区の中心として、町並みは整備され住宅地・商業地として活況を呈していますが、調査の開始された昭和40年代後半は静かな田園風景が広がる農村地帯でした。

発掘調査は、縄文時代の貝塚や古墳など合計39遺跡に及び、「おゆみ野地区」における古代文化の解明に大きな成果をあげることができました。この調査成果を広く県民及び地元の皆様方に紹介したく、今年度の巡回展示として企画したところです。この展示をとおして、いにしえへの思いを巡らせ古代文化の一端に触れていただければ主催者として幸いです。

なお、本巡回展の開催にあたりまして後援をいただいた千葉県教育委員会ならびに関係諸機関に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成20年7月12日

目次

開催にあたって	
おゆみ野地区の調査と成果	4
おゆみ野地区の遺跡	5
調査遺跡一覧	6
旧石器時代	8
旧石器・縄文時代	11
縄文時代	12
縄文・弥生時代	23
古墳時代	24
奈良・平安時代	34
中世	40
近世	41

表紙：有吉北貝塚調査風景
裏表紙：人形塚古墳出土人物・円筒埴輪(ちはら台古墳公園にて)

おゆみ野地区の調査と成果

現在、整然とした町並みに変容を遂げた「おゆみ野地区」は、昭和40年代後半に日本住宅公団(現、独立行政法人都市再生機構)により約600ヘクタールに及ぶ大規模ニュータウンの建設が計画されました。この計画に基づき、千葉市教育委員会と千葉県教育委員会では地区内に所在する埋蔵文化財について現地踏査を実施しました。その結果、24か所で遺跡が確認され、事業者である日本住宅公団を交えた三者によりその取り扱いについて協議し、現状保存の不可能な遺跡については開発に先行するかたちで発掘調査を実施するということになりました。

この「おゆみ野地区」は地形的にみれば、標高30m～40mの平坦な台地とその周囲には河川によって形成された沖積平野が広がり、古代人の居住域として格好の条件が備わっていた場所といえます。縄文時代では貝塚を残し、古墳時代には前方後円墳を中心としてその周辺には円墳・方墳が作られました。

発掘調査は昭和49年度から実施され、保存部分を残し平成12年度をもって終了しました。その間、遺跡の広がり、あるいは新発見された遺跡もあり、調査終了時点では下記にまとめた合計39遺跡、総面積約85万㎡の調査となりました。その後、順次整理作業をすすめていき、千葉県分として39遺跡、千葉市分として1遺跡の計41冊の調査報告書が刊行されるに至り、平成19年度をもって事業の終了となりました。

その成果は、後述するように古くは旧石器時代の石器群の発見からはじまり、縄文時代の貝塚と集落、ひときわ目立つ前方後円墳の人形塚古墳などによって代表され、集落の展開とともに房総の古代文化解明につながるものとなりました。以下、各時代について主な遺跡を取り上げます。

おゆみ野地区の遺跡

< 旧石器時代 >

この時代では数時期にわたって当時の人びとの痕跡が認められた太田法師遺跡・椎名崎遺跡、局部磨製石斧が出土した六通金山遺跡・神明社裏遺跡、小さな石器群が特徴的な春日作遺跡、縄文時代の到来を告げる石器群が出土した六通神社南遺跡を紹介します。

< 縄文時代 >

この時代の主要な遺構としては、早期の調理施設である炉穴が多数発見されており、高沢遺跡・バクチ穴遺跡・御塚台遺跡などでは幾重にも炉穴が重複しあい、長期にわたる居住が認められました。中期になると、大規模な貝塚が有吉の地に形成され、有吉北・南貝塚として拠点的な集落が営まれています。さらに後期に至っても小金沢貝塚・木戸作貝塚へと人びとの生活は受け継がれます。やがて晩期を迎えると、貝塚を伴う文化は衰退し六通貝塚を残して縄文時代は終息へと向かっていきます。

< 弥生時代 >

縄文時代が終わると、おゆみ野の地から人びとは離れていったらしく小規模な遺跡が僅かに残る程度となりました。その痕跡を小金沢古墳群・城ノ台遺跡・椎名神社遺跡・有吉遺跡にみることが出来ます。

< 古墳時代 >

この時代は、古墳の造営とともに集落も形成され充実した遺跡が営まれるようになります。前期の古墳としては馬ノ口遺跡の古墳群と椎名崎古墳群の一部である西ノ原1号墳、集落跡では南二重堀遺跡などが該当します。中期になると上赤塚1号墳が造営され、集落では鎌取遺跡・鎌取場台遺跡が営まれ、後期の到来とともに数多くの古墳が築かれ、いわゆる群集墳が形成されていきます。その中心となった古墳が「人形塚古墳」です。一方、集落も広範囲に展開され高沢遺跡では奈良・平安時代にまで継続して大きな集落が営まれてきました。その後、7世紀になると古墳は方形を呈したものが主流となり、やがて大きく盛土をした古墳は姿を消していくこととなります。

< 奈良・平安時代 >

奈良時代以降は、高沢遺跡の他に有吉遺跡・ムコアラク遺跡・城ノ台遺跡などで集落が形成されました。物流も盛んとなり、陶器や金工品などがもたらされるとともに、太田法師遺跡では複数の鍛冶炉がまとまって発見されており、鉄製品の製作も本格的におこなわれるようになりました。

< 中・近世 >

中世から近世にかけては、大規模な遺跡こそありませんが台地の縁を整形した平場の跡や近世集落の一部、塚の造営などみられます。伯父名台遺跡・有吉城跡などでは中国からの輸入陶磁器や瀬戸美濃産陶器類が出土しており、今日の椎名崎町や有吉町の前身が形成された時代といえます。

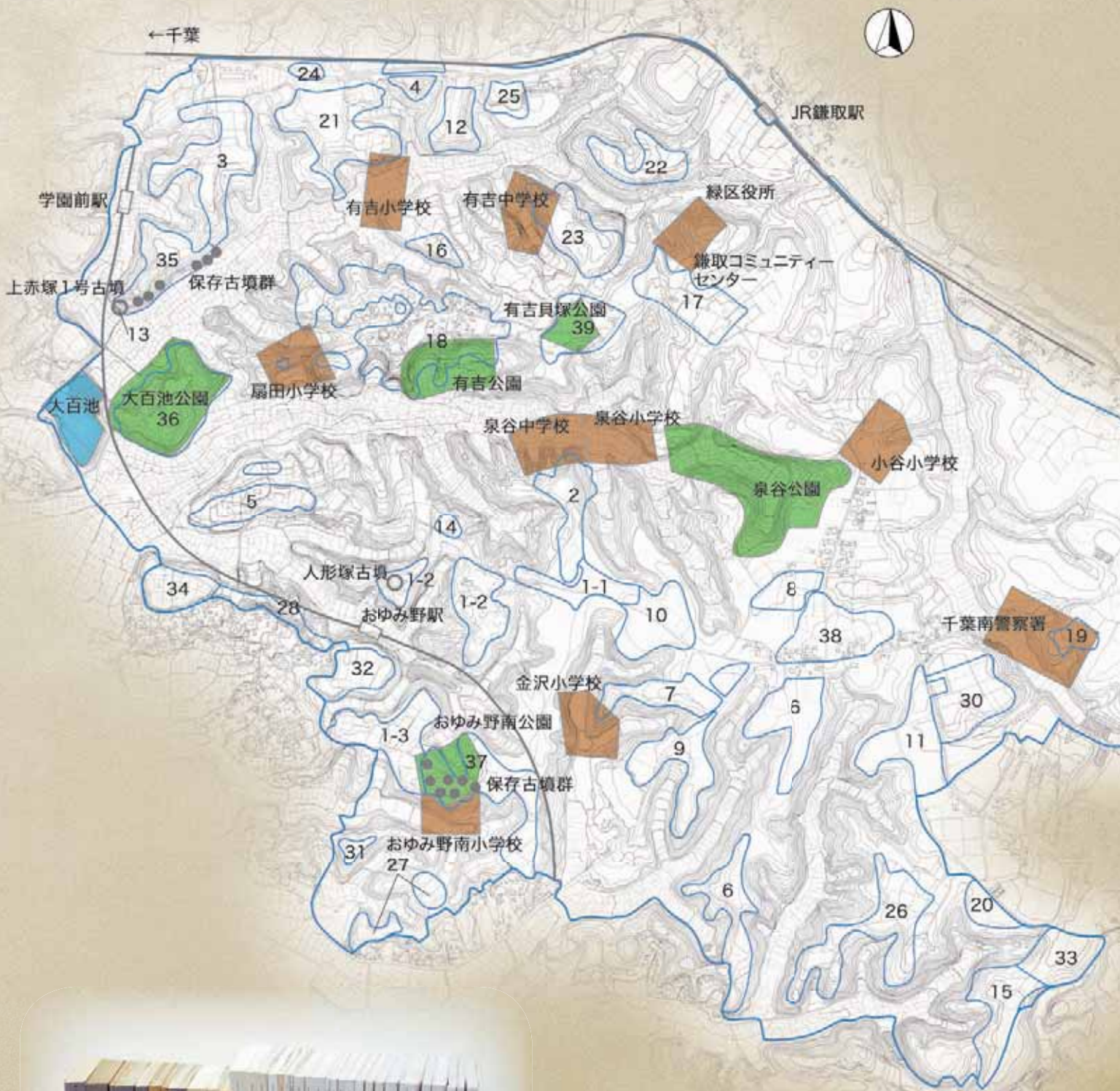
以上、「おゆみ野地区」において調査された代表的な遺跡について取り上げ、県内博物館等の6施設で巡回展示することになりました。展示施設に足を運び、古代の生活に思いを巡らしていただければ主催者として、また調査を担ったものとして望外の喜びであることを申し添えます。

調査遺跡一覽

(番号は7ページの遺跡分布図と一致)

番号	遺跡名	調査年度	規模	遺跡の内容
1-1	椎名崎古墳群	S49	古墳群	古墳 前方後円墳1基・円墳4基・主体部1)
1-2	同B支群	S60～H2・7	43,850㎡、古墳群	旧石器24地点、縄文早期炉穴群、古墳 前方後円墳7基・円墳7基・主体部5基) 奈良平安集落跡
1-3	同C支群	H3・4・5・7・9	43,900㎡、保存区12,000㎡(確認)	旧石器7地点、古墳 円墳27基・方墳1基・土坑墓5基) 奈良平安集落跡
2	木戸作遺跡	S49	3,750㎡	古墳後期集落跡
		S50	7,000㎡	縄文後期 集落跡・貝塚7地点)
3	有吉遺跡	S49	30,000㎡	古墳後期～奈良平安集落跡
		S50	20,000㎡	縄文早期炉穴群、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 円墳5基周溝のみ)
		S55	5,000㎡	縄文早期炉穴群、古墳前期～奈良平安集落跡、古墳 円墳2基)
		S63	9,000㎡	旧石器6地点、縄文前期集落跡、古墳後期～奈良平安集落跡
4	生浜古墳群	S50	古墳群	古墳 円墳6基)
5	椎名崎遺跡	S51	18,000㎡	縄文早期炉穴群、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 円墳3基・方墳1基)
6	ムコアラク遺跡	S51・52	30,000㎡、古墳群	縄文早期炉穴群、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 前方後円墳1基・方墳8基)
		H2・3	13,500㎡、古墳	旧石器6地点、古墳後期集落跡、古墳 円墳1基)
7	小金沢古墳群	S51・52	古墳群	縄文早期炉穴群、古墳 前方後円墳1基・円墳2基・主体部3基)
		S62・H4	15,000㎡	旧石器7地点、縄文早期炉穴群、古墳後期～奈良平安集落跡
8	六通遺跡	S52・53	10,000㎡	縄文後期集落跡、奈良平安集落跡
9	御塚台遺跡	S53	3,500㎡	旧石器1地点、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 方形周溝4基) 近世 塚1基)
	同上	S58・62・63・H3	34,570㎡	旧石器7地点、縄文早期炉穴群、縄文中期集落跡、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 方墳13基・土坑墓8基) 生産遺構 鍛冶跡・粘土採掘坑) 近世 塚1基)
10	小金沢貝塚	S52	30,000㎡	旧石器1地点、縄文早期炉穴群、縄文中・後期 集落跡・貝塚) 古墳 前方後円墳3基・円墳7基・不整形墳1基)
11	六通金山遺跡	S51・53・54	33,000㎡	旧石器6地点、縄文早期炉穴群、縄文中期 集落跡・地点貝塚) 古墳 円墳2基・方墳3基)
12	南二重堀遺跡	S54・55	12,000㎡	旧石器5地点、縄文中期集落跡、古墳前期集落跡、古墳 円墳8基)
13	上赤塚1号墳	S55	古墳	古墳 円墳1基)
14	狐塚古墳群	S51	古墳群	古墳 円墳2基)
15	バクチ穴遺跡	S54・56	8,000㎡	旧石器3地点、縄文早期炉穴群、奈良平安集落跡
		H5・6	21,000㎡	旧石器24地点、縄文前期集落跡、奈良平安集落跡
16	有吉南遺跡	S56	7,000㎡	古墳後期～奈良平安集落跡
17	馬ノ口遺跡	S55・56	45,000㎡	旧石器10地点、古墳前期集落跡、古墳 方墳3基・円墳6基)
18	有吉城跡	S57・58	2,800㎡	縄文早期炉穴群、中世土塁
	同上	S59～63・H元～6・9	55,980㎡	旧石器8地点、縄文早期炉穴群、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 円墳2基) 近世 土坑群・塚1基)
19	白鳥台遺跡	S57	10,000㎡	旧石器1地点
20	大膳野北遺跡	S55・57	8,800㎡	縄文早期炉穴群、縄文中期集落跡、奈良平安時代集落跡、古墳 方墳8基)
21	高沢遺跡	S56・57	51,000㎡	旧石器6地点、縄文早期炉穴群、縄文中期集落跡、古墳後期～奈良平安集落跡
22	鎌取遺跡	S58・60	23,000㎡	旧石器3地点、縄文中期集落跡、古墳中期集落跡
23	有吉北貝塚	S59～62	29,030㎡	旧石器6地点、縄文中期集落跡、古墳後期集落跡、中近世 土坑群・整地跡)
24	高沢古墳群	S57	古墳群	古墳 円墳4基・方墳1基) 近世 塚2基)
25	鎌取場台遺跡(千葉市分含む)	H2・17・18	10,200㎡	旧石器2地点、縄文中期集落跡、古墳前期～中期集落跡、古墳 円墳2基・方墳4基)
26	太田法師遺跡	S63・H元・2	27,300㎡	旧石器21地点、縄文早期 集落跡・炉穴群) 縄文前期 集落跡・土坑群) 古墳 方墳7基) 奈良平安集落跡
27	富岡古墳群	H8・9	古墳群	古墳 円墳7基) 中世(五輪塔・板碑)
28	椎名神社遺跡	H8	16,220㎡	弥生中期集落跡、古墳前期集落跡、古墳 円墳1基) 奈良平安時代集落跡
29	古城小弓遺跡	H6	616㎡	近世 盛土遺構)
30	六通神社南遺跡	S58・H2・8・9	42,800㎡	旧石器1地点、縄文草創期1地点、古墳 方墳47基・主体部1基)
31	春日作遺跡	H9	3,700㎡	旧石器3地点、古墳後期集落跡、古墳 円墳1基)
32	今台遺跡	H3・8・9	22,200㎡	旧石器2地点、縄文早期炉穴群、古墳後期集落跡
33	大膳野南遺跡	S61・H5・12	22,500㎡(確認)	縄文後期 集落跡・貝塚2地点)
34	伯父名台遺跡	H5・6	19,700㎡	縄文早期炉穴群、古墳後期～奈良平安集落跡、中世 集落跡・地下式坑・土坑墓・井戸)
35	上赤塚(貝塚)遺跡	H5・7・11	24,000㎡(確認)	縄文後期 集落跡・貝塚4地点) 古墳 円墳6基)
36	城ノ台遺跡	S62・63・H2～4・6	11,340㎡	旧石器4地点、縄文早期炉穴群、古墳中期～奈良平安集落跡、中世城郭跡(虎口・土塁・堀)、近世 塚1基)
37	神明社裏遺跡	S58～60・H9	48,200㎡	旧石器37地点、縄文早期炉穴群、縄文中期集落跡、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 前方後円墳3基・円墳6基・方墳1基)
38	六通貝塚	S59・60・H3・H7～10	13,574㎡	旧石器12地点、縄文早期炉穴群、縄文後・晩期 集落跡・貝塚) 奈良平安集落跡
39	有吉南貝塚	H8～12	11,206㎡ 7,300㎡(確認)	旧石器7地点、縄文中期集落跡、古墳後期～奈良平安集落跡、古墳 円墳2基)

おゆみ野地区の遺跡分布図



刊行された調査報告書

旧石器時代の石器群は多数の遺跡で出土しています。最も古い石器群として特徴的な局部磨製石斧を出土した六通金山遺跡での出土品は、刃部がきれいに研磨されたものです。また数時期にわたる居住が認められた遺跡として太田法師遺跡と椎名崎古墳群下層出土の石器群をあげることができます。とりわけ古墳群下層で発見された一連の石器群では、石器の出土層位から6時期にわたり人びとの生活が営まれていたことが判明しました。太田法師遺跡でも3時期にわたる居住が確認され、ここでは石器の製作工程が理解できるような資料が出土しています。展示資料は黒曜石を材料としたもので、剥片を剥離した順序が理解できるものです。

旧石器時代も終末を迎える時期になると、先端を鋭利に加工した棒の両側面に小さな剥片さいせきじん（細石刃）を埋め込むことにより狩りで使用する

槍を作ることが流行します。春日作遺跡や前述した椎名崎古墳群下でも好資料が出土しました。

一方、縄文時代の到来を告げる石器群も六通神社南遺跡で発見されています。この時期の石器群を出土する遺跡は僅少で貴重な発見となりました。石器群は主として木葉形を呈した尖頭器（槍先）で構成され、他には硬く加工し易い石質で知られる頁岩を素材とした削器などを伴っていました。また尖頭器に加工されていた石材（安山岩）8点について産地の同定を試みたところ、4点は畿内の二上山産、他の4点は岐阜県にじょうざんの下呂産であることが分析結果から得られました。他に出土した搔器類についてみると、硬質な頁岩が使用されていました。この石材も房総の地では産出せず、東北地方に産するものと推測されているため良質な石材はかなり遠距離の地から運ばれてきています。



太田法師遺跡 第8ブロック



太田法師遺跡 第4ブロック



太田法師遺跡 第4ブロック出土石器群



太田法師遺跡 第4ブロック(接合資料)



太田法師遺跡 第8ブロック出土石器群



椎名崎古墳群B支群 下層出土石器群 第1文化層～第6文化層)



六通金山遺跡・神明社裏遺跡 (第1文化層)出土石器群



神明社裏遺跡 出土石器群 (第2文化層~第5文化層)



春日作遺跡 出土石器群



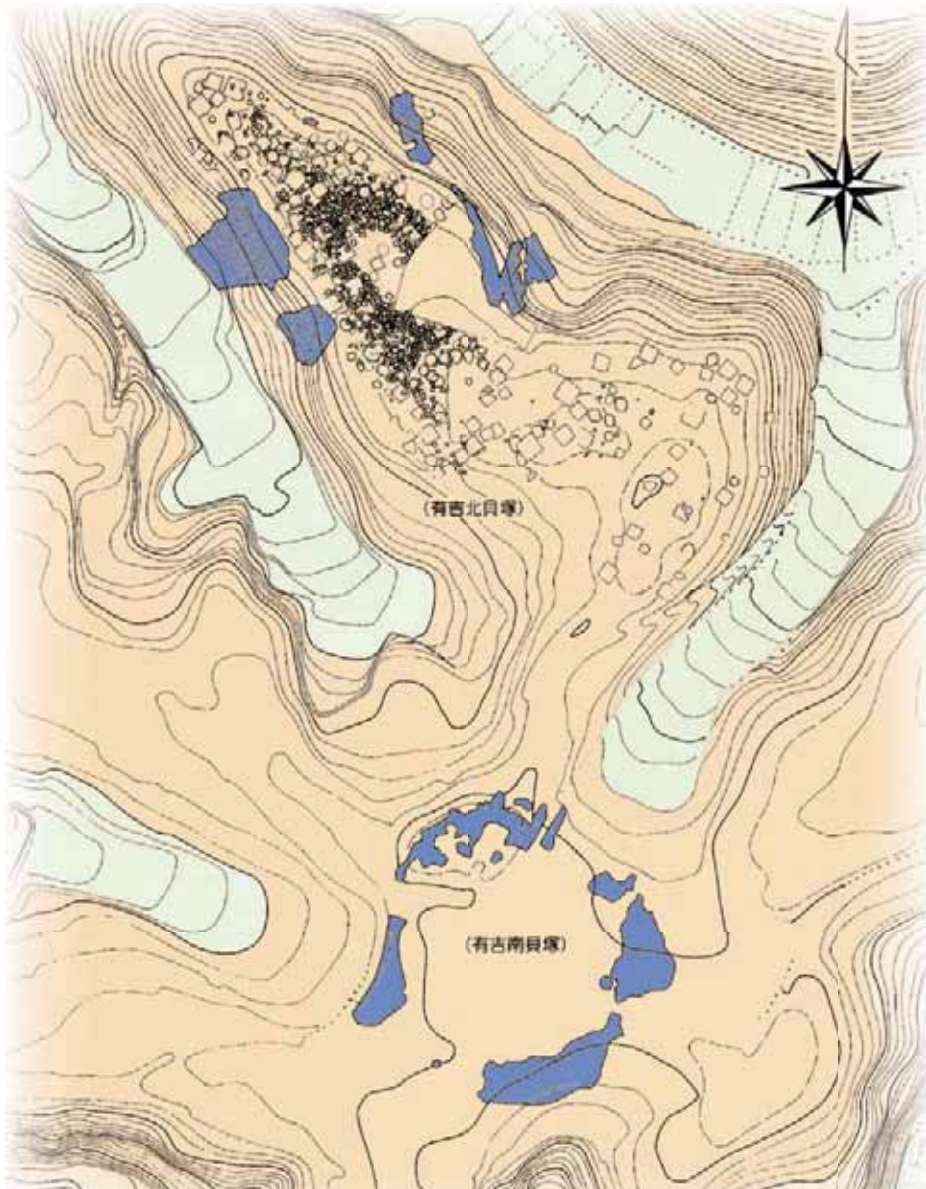
六通神社南遺跡 石器出土状況



六通神社南遺跡 出土石器群

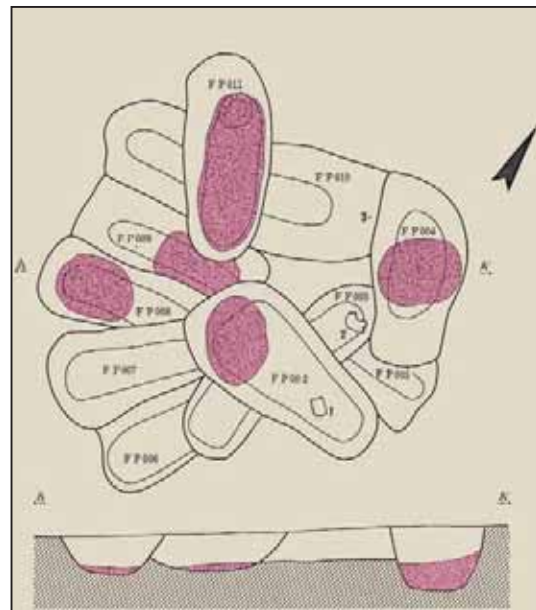
おゆみ野地区に暮らした縄文人が隆盛を極めた時期として、早期後半と中期後半から後期前半の二時期をあげることができます。その根拠として、前者は高沢遺跡・バクチ穴遺跡・御塚台遺跡などから多量の遺構・遺物が出土しています。遺構では炉穴が何基も重複して検出され、温暖な気候であった当時は屋外で煮炊きなどの調理をしていたようです。その後、中期になると海の恩恵ともいべき大規模な貝塚が形成されるようになり、有吉北・南の両貝塚は当時の集落の拠点となっていました。環状に分布した住居跡や廃棄された貝層中から出土する遺物には当時の生活用具・装飾品など貴重なものがみられます。さらに後期になると、小金沢貝塚・木戸作貝塚へと活動の拠

点は移動します。木戸作貝塚では貝層を土壌と分離し、そこに残存する骨などを取り出し、当時の人びとが食糧とした獣類や魚類について詳しく調べました。獣類ではイノシシ・シカが多く、魚類ではタイ・スズキ・アジ・サバ・フグの他にコイ・フナなどの淡水魚も食べていました。後期から晩期にかけては六通貝塚が形成されます。ここでも豊富な遺物が認められました。耳飾りや玉類の装身具、石棒・土偶・土版といった祭祀具、赤色の顔料を入れた貝など興味深い遺物が発見されています。また後期後半から晩期にかけては気候が温暖であったため住居は深い竪穴を掘ることはしなかったようです。そのため住居跡の検出が少ないこともこの時期の特徴です。



有吉北貝塚(上)・有吉南貝塚
貝層の分布と遺構群

炉穴……縄文時代をとおりて最も温暖な気候のもとで生活を営んでいた早期後半の人びとは、屋外で調理をしていました。その痕跡は炉穴と呼ばれ、多数の遺跡で確認されています。長期間にわたって営まれた集落の炉穴は、しばしば右図のように幾度となく作り替えられました。簡単な構造であったため長期の使用には適さなかったようです。また、この時期に使用された土器は胎土に植物の繊維を多く混入させたため繊維土器ともいわれ、次の前期前半まで製作技法として引き継がれます。



高沢遺跡 F P 002～011号跡



高沢遺跡 F P 001号跡遺物出土状況



バクチ穴遺跡 33号跡遺物出土状況



御塚台遺跡 315号跡遺物出土状況



御塚台遺跡 313号～315号跡遺物出土状況



高沢遺跡 F P 001号跡出土土器



バクチ穴遺跡 33号跡出土土器



御塚台遺跡 315号跡出土土器

縄文時代

異なる文化圏・・・前期も後半になると、それまで長野県をも含めた広大な文化圏(諸磯式)が形成されていた中に、霞ヶ浦周辺域を中心として器面を貝殻文で飾った土器群(浮島式)があらわれます。ハマグリやサルボウといった二枚貝の貝殻を利用した文様構成は海辺での生活を連想させます。このように房総半島では二つの異なった土器群が出土し、「おゆみ野地区」周辺では浮島式土器がやや優勢を保っています。この頃から深鉢中心であった縄文土器の器形にも変化がみられ、浅鉢も一般化してきます。



大膳野北遺跡 諸磯式(左)・浮島式(右)土器



バクチ穴遺跡 28号土坑遺物出土状況



バクチ穴遺跡 28号土坑出土土器



バクチ穴遺跡 瑛状耳飾



バクチ穴遺跡 010号跡



大膳野北遺跡 52号跡出土土器



大膳野北遺跡 遺構外出土土器



太田法師遺跡 038号土坑



太田法師遺跡 土坑群出土土器



有吉北貝塚 南斜面貝層と検出遺構群



有吉北貝塚 SB096号跡



有吉北貝塚 SB173号跡



有吉北貝塚 SK185号小竪穴



有吉北貝塚 SK774号小竪穴

貝塚と集落……近接して立地する有吉南・北の両貝塚は、中期における拠点的な集落を形成していました。南貝塚の主要部分は保存され後世に残されましたが、一部を除きほぼ全域が調査された北貝塚では、その全容が明らかとなりました。集落は予想に違わ

ず、住居群が環状に構成され、中心部には空白地帯が認められました。その結果、住居跡数は134軒を数え、土坑780基が調査されました。それに加え5か所の大斜面貝塚が発見され学術的にも貴重な調査例を提供した遺跡といえます。



有吉北貝塚 SK238・SK185・SK145号出土土器



有吉北貝塚 SK252号出土土器



有吉北貝塚 磨製石斧類



有吉北貝塚 打製石斧類



有吉北貝塚 磨石類



有吉北貝塚 石皿



有吉北貝塚 軽石製品・土器片錘



有吉北貝塚 貝刃・磨滅具



有吉北貝塚 石鏃・石錐・異形石器



有吉北貝塚 骨角歯牙製品



有吉北貝塚 石製装身具



有吉北貝塚 土器底部の文様・高師小僧



有吉北貝塚 貝製装身具・貝輪



有吉北貝塚 土製耳飾



有吉北貝塚 鹿角製品



有吉南貝塚 貝層の調査



有吉南貝塚と貝層の分布



有吉南貝塚 東貝層断面



有吉南貝塚 354号跡埋葬人骨



有吉南貝塚 354号跡出土土器



有吉南貝塚 354号跡出土人骨着装品(腰飾)



有吉南貝塚 354号跡出土糞石



有吉南貝塚 354号跡出土人骨着装品製品



有吉南貝塚 169号跡A・B号人骨



有吉南貝塚 378号跡(2号イヌ)

柄鏡形住居……小金沢貝塚は中期末葉から後期前半にかけての集落跡であることが判明しました。主体は後期(19軒中の17軒)で、このうちの6軒は柄鏡形住居と呼ばれるものでありました。径5m～6mの住居の南側に柄鏡の柄にあたる部分が併設されています。これは屋外に突きでた出入口部にあたり、左右3～4本の支柱によって支えられています。この時代には、しばしばみられる特徴的な住居です。



小金沢貝塚 全体図



小金沢貝塚 141号跡



小金沢貝塚 141号跡出土土器



小金沢貝塚 122号跡(4号人骨)



小金沢貝塚 貝層出土土器



小金沢貝塚 貝層出土土器



小金沢貝塚 貝層出土土製品

縄文時代

縄文人の食糧・・・木戸作貝塚では貝層サンプルを採取し詳細な分析がおこなわれました。この分析により当時の人びとが何を食べていたのかが理解できます。貝類はハマグリ・イボキサゴ・シオフキ・アサリなど、獣類ではシカ・イノシシの他にタヌキ・ウサギ、鳥類ではキジ・カイツブリ、魚類ではクロダイ・マダイ・スズキ・イワシ・アジ・コチなどとともにサメ・エイ・クジラ・ウミガメなどの骨類が出土しています。これら獣・魚類の多くは、今でも私たちの食卓にのぼるものです。



木戸作貝塚 全体図（青は貝層）



木戸作貝塚 28号～31号跡(重複住居)



木戸作貝塚 第1貝塚 第18トレンチ断面



木戸作貝塚 32号跡出土土器



木戸作貝塚 30号跡出土土器



木戸作貝塚 貝層出土土製品



木戸作貝塚 貝層出土土器

縄文人の貝採取……六通貝塚では堆積していた貝類を分析することにより様々なことがわかりました。採取は四季にわたっていましたが、主体は春から夏にかけてとなり、潮干狩りの季節は今も古代も変わらなかったようです。貝の種類ではイボキサゴ・ハマグリを主体にシオフキガイ・アサリ・ウミニナ・マガキといった貝類が採取され、その大きさもハマグリが4 cm ~ 5 cm、アサリも4 cm前後と大きめの貝が採取されていました。



六通貝塚 全体図（青は貝層）



六通貝塚 SI006号跡



六通貝塚 主貝層東端部



六通貝塚 SI002号炉跡



六通貝塚 SI005号跡



六通貝塚 SK028号土坑



六通貝塚 西部地区(西方より)



六通貝塚 貝層出土土器(加曾利B式土器)



六通貝塚 貝層出土土器(安行式土器)



六通貝塚 磨製・打製石斧類



六通貝塚 土製耳飾・土版・土製品



六通貝塚 赤色顔料を塗布したアリスガイ



六通貝塚 土偶



六通貝塚 各種砥石類



六通貝塚 傷痕のある獣骨

縄文・弥生時代

縄文から弥生へ……狩猟と採集に生活の糧を求めた縄文時代も晩期になると十分な食糧獲得ができなくなり、遺跡数の減少と遺跡規模の縮小化へと向かいます。それに続く弥生時代初期の遺跡も少なく「おゆみ野地区」でも小規模な遺跡が数か所にみられるだけとなり、縄文時代的な生活が続いていました。中期に入ると稲作は伝わっていたことは確かですが、その様子は明らかではありません。その後、中期も後半になると市原市草刈遺跡をはじめとして^{むらたがわ}村田川流域に集落を形成することとなり、農耕文化が定着していきます。



六通貝塚 出土土器



小金沢古墳群 出土土器



バクチ穴遺跡 出土土器



城ノ台遺跡 298号跡・207号跡(溝)出土土器



椎名神社遺跡 021号跡出土土器



有吉遺跡(第4次) 010号跡出土土器



バクチ穴遺跡 11号跡土器出土状況



バクチ穴遺跡 11号跡出土土器

古墳時代の初期から中期の遺跡は赤塚支谷に集中しています。馬ノ口・鎌取・南二重堀・城ノ台遺跡などに集落が見られ、130軒ほどの住居跡が見つっています。このうち、南二重堀遺跡の住居跡から出土した水鳥形土製品は、鋭く尖った嘴くちばしの形状などから「鶺鴒」の一種をかたどったものと考えられ、当時の景観を知る上でも注目されます。また、鍛冶工房や鉄鋳てつてい鉄の素材など当時の先進技術を物語る遺物も出土しています。古墳は馬ノ口・南二重堀遺跡のほか台地南縁の上赤塚・椎名崎・富岡古墳群に見られます。上赤塚1号墳では、墳丘中央部の埋葬施設から死者のために作られた石枕や立花、石製模造品(石製のミニチュア)、鉄製農具、大刀・小刀、銅釧・滑石製勾玉・ガラス玉など多くの副葬品が出土しました。石枕は利根川下流域を中心に北総から茨城県南部に集中して分布するもので、その地域の人々と交流があったことを示しています。

古墳時代後半の住居跡は地区内のほとんどの

遺跡にあり、約700軒に及んでいます。その数は前・中期の5倍以上に達し、現代のニュータウン造成のような急激な開発がこの時期にもあったことがわかりました。これに連動して古墳群も爆発的に増加し、6世紀中頃から7世紀後半の100年あまりの間に200基以上の古墳が次々と造られ、特に泉支谷と大金沢支谷に囲まれた台地上に集中しています。なかでも椎名崎古墳群は規模が最も大きく、埴輪をめぐらした人形塚古墳はその代表格といえます。埴輪は顎ひげをたくわえた人物埴輪が特徴で、山武郡横芝光町の殿塚・姫塚古墳・山武市成東町きょうそうづか経僧塚古墳出土の人物埴輪と極めて良く似ています。馬引きや巫女などの人物、家形・馬形・円筒埴輪も九十九里地域との関連性が強い埴輪です。また、石棺には茨城県の筑波石が使われ、この地域の豪族の交流範囲が広い地域にわたっていたことを示しています。このように、おゆみ野の遺跡群は古墳時代後期に大きな画期をもって発展したといえるでしょう。



椎名崎古墳群
古墳分布図



馬ノ口遺跡 全景

古墳の形……おゆみ野の地に古墳が造営されはじめた頃の遺跡として、西ノ原古墳群と馬ノ口遺跡があげられます。前者は円墳であり、後者は方墳という形をとっています。この方墳は弥生時代の墓制(方形周溝墓)を受け継いだもので初期古墳の形態としてしばしばみられます。



馬ノ口遺跡 1号～3号墳出土土器



馬ノ口遺跡 26号跡



馬ノ口遺跡 26号跡出土土器



馬ノ口遺跡 63号跡



馬ノ口遺跡 63号跡出土土器



富岡古墳群 全景



富岡古墳群 1号～3号墳出土土器

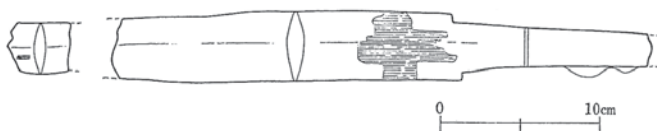


富岡古墳群 4号墳調査前(出羽三山供養塚)

塚に再利用された古墳……三山塚の下にはおゆみ野では数少ない前期の古墳が埋もれていました。塚はそれらの墳丘を再利用してつくられたからです。発掘の結果、方墳や円墳の周溝で古墳に供えられた壺や器台などの土器群が出土しています。



椎名崎遺跡 西ノ原1号墳全景



椎名崎遺跡 西ノ原1号墳出土鉄剣実測図



南二重堀遺跡 全景

住居と祭祀……69号住居跡から出土した水鳥形土製品は、その出土状況に特徴がみられます。壁際の炭化材に三角形に囲まれて、頭を壁に向けて横たわった状態で出土しました。他にはあまり遺物がないことから、住居を廃絶した時の祭祀の跡であると思われます。



南二重堀遺跡 28号跡



南二重堀遺跡 69号跡水鳥出土状況



南二重堀遺跡 69号跡



南二重堀遺跡 69号跡出土水鳥形土製品



南二重堀遺跡 19号跡



南二重堀遺跡 19号跡出土土器



上赤塚1号墳 全景



上赤塚1号墳 第1主体部



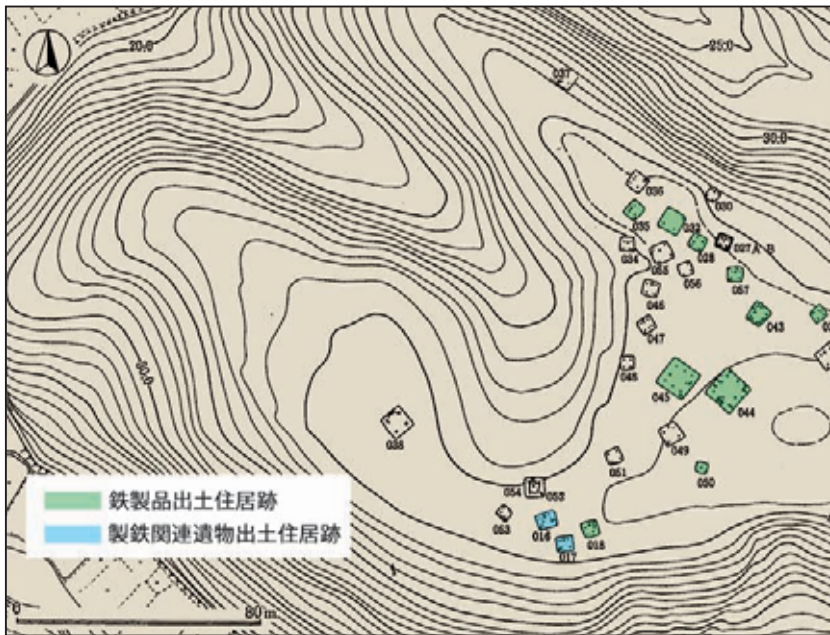
上赤塚1号墳 第1主体部出土玉類



上赤塚1号墳 第1・第2主体部出土の石枕と副葬品



神社裏遺跡
1号墳出土銅釧



鎌取遺跡 全体図と製鉄関連遺跡



鎌取遺跡 016号跡

集落と鍛冶… 5世紀に入ると集落内で、小規模な製鉄（鍛冶）がおこなわれるようになります。鎌取遺跡016号住居跡では鍛冶関連遺物として、高杯の脚部を利用した羽口・鉄床石・鉄滓が出土し、そこで生産されたとみられる鉄製品も10軒の住居跡から発見されています。



鎌取遺跡 050号跡遺物出土状況



御塚台遺跡

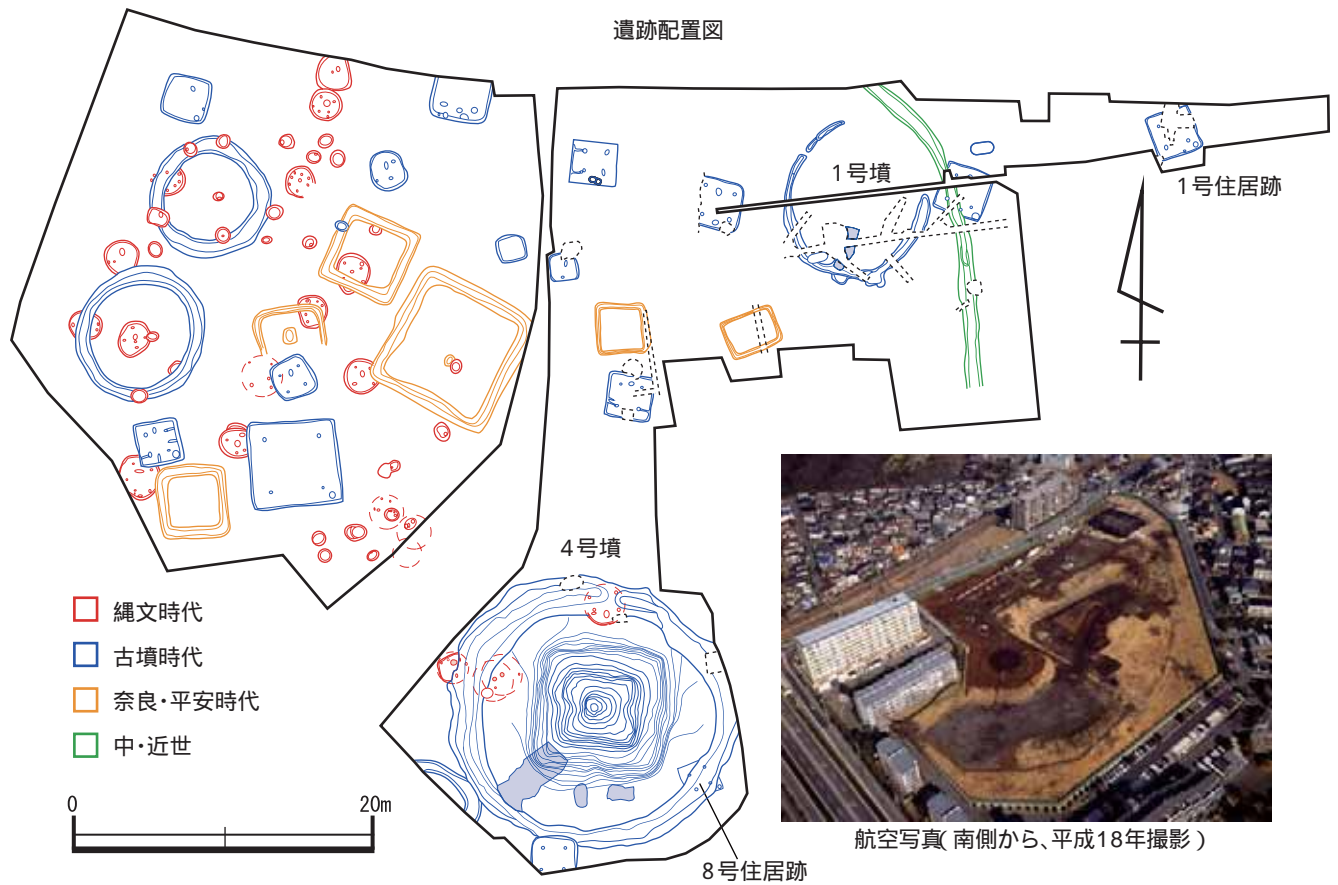
鎌取遺跡 016号跡(上段)出土製鉄関連遺物



鎌取遺跡 044号跡出土土器



鎌取遺跡 050号跡等出土石製模造品類



貯蔵穴から出土した土師器(1号住居跡)



住居跡から出土した貝(8号住居跡)

鎌取場台遺跡・・・鎌取場台遺跡は、JR外房線鎌取駅から南西へ約800m離れた場所に位置します。これまでの調査で、旧石器時代から中・近世まで多岐にわたる時代の遺構が見つかっております。

住居跡には、貯蔵用に使われていたと考えられている貯蔵穴が備えられており、中から土師器が多く出土しました。また、ハマグリが棄てられていた住居跡も見つかりました。

古墳は全て円墳で、1号・4号墳からは横穴式石室よこあなしきせきしつが見つかりました。1号墳は後世の破壊により

消失していましたが、石室内からは、副葬品として金銅製耳環・首飾りこんどうせいじかんが出土しました。4号墳は、墳丘の高さ約4.5m、周溝の直径37mを測る大型の古墳です。4号墳は、現状の形状が方形で段を持っていたので、中・近世の塚と考えられていました。調査の結果、4号墳は塚として再利用するために、墳丘を削られた古墳であることが分かりました。横穴式石室は盗掘を被っており、直刀と鉄鏃がわずかに出土しました。

横穴式石室
(が首飾り出土位置)



鎌取場台遺跡 1号墳

調査前



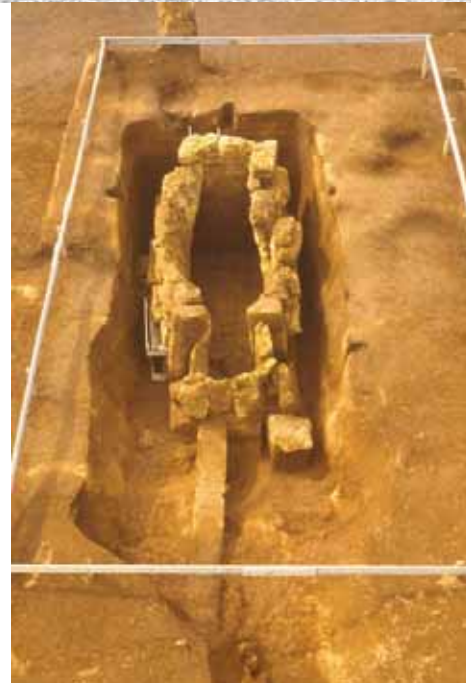
鎌取場台遺跡 4号墳 横穴式石室



墳丘断面

古墳時代

人形塚と築造計画線……人形塚古墳の調査では、全国で初めて墳丘の下に残された地割り線、すなわち墳丘築造の計画線が発掘され注目を集めました。地面に描かれた同心円の中心を求めると、後円部の中心に位置することは明らかで、内円は後円部上段の裾部、外円は墳丘裾部をめぐることが分かりました。また、墳丘断面図と照合すると、内円が後円部墳丘盛土の第1段階の範囲を示し、くびれ部で検出された外円が前方部第1段階の盛土範囲を示しています。



人形塚古墳 石室



人形塚古墳 墳丘下の計画線



人形塚古墳 石棺



人形塚古墳 埴輪片出土状況

古墳時代の終末と方墳・・・古墳時代終末期になると谷奥部を中心に方墳が築かれ、六通神社南遺跡では奈良時代以降まで連続しています。一方、さらに奥まった台地上には奈良時代になって新たに造墓を開始した例があり、平安時代前半まで続いています。このように古墳時代が終わってから方墳を作り続けるのは、この地域の特徴のひとつです。



六通金山遺跡 4号墳出土土器(須恵器)



六通金山遺跡 4号墳(左)・5号墳全景



太田法師遺跡 7号墳



六通神社南遺跡 古墳群(方墳)配置図



太田法師遺跡 7号墳出土金銅製六鈴銅釧



六通神社南遺跡 033号跡



六通神社南 033号跡埋葬施設

奈良・平安時代

7世紀も終わり頃になると、おゆみ野にも新たな動きがみられます。一つは新たな集落の展開で、従来からの集落が徐々に台地全体に形成・拡大(高沢遺跡例)し、奈良時代にピークを迎えるものと、一時的に縮小(有吉遺跡例)し平安時代に集落の全盛期を示すものがあります。今ひとつは、未開地であった谷奥が開発され新しい集落(太田法師遺跡)

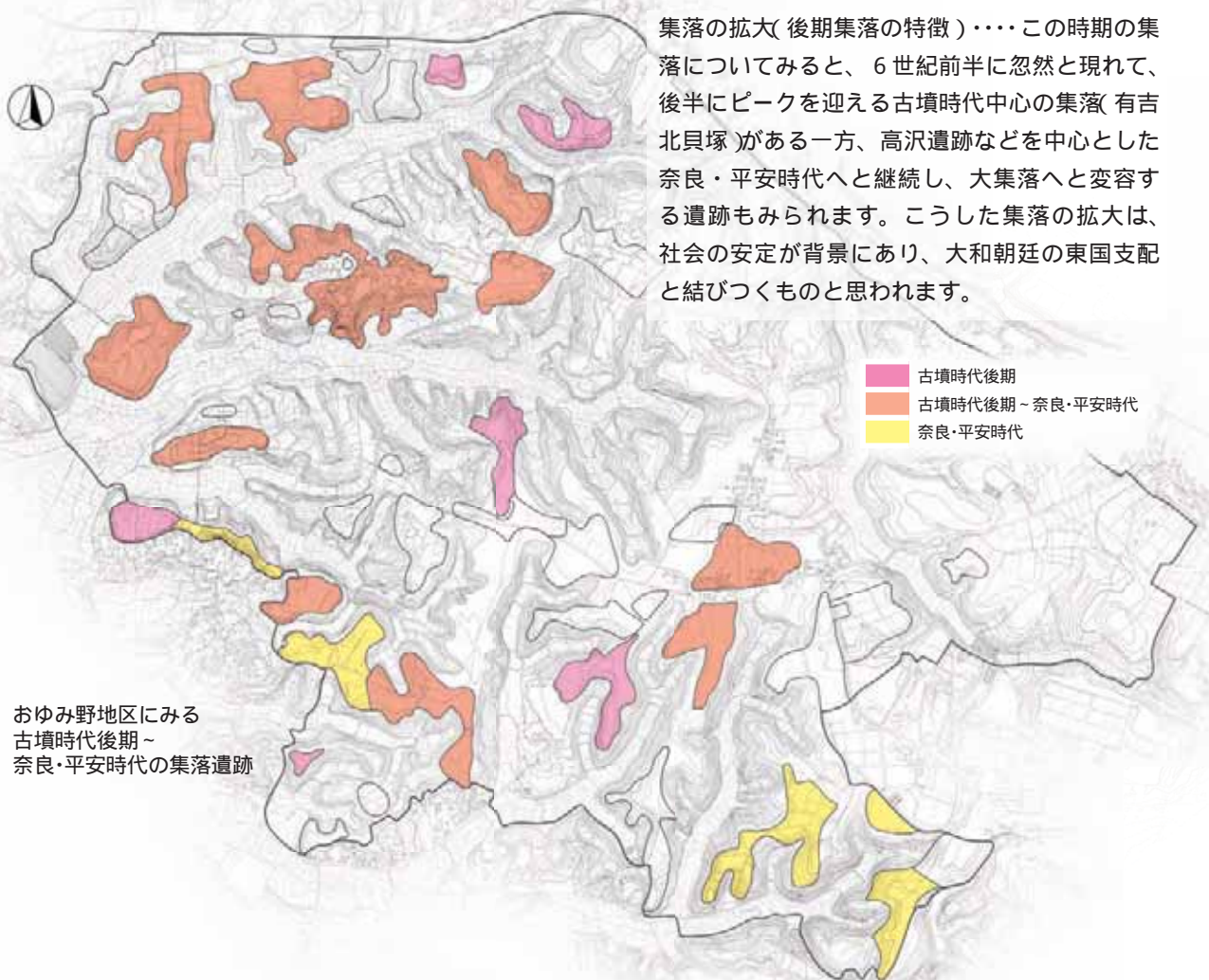
が形成されました。また、開発の拠点となった集落(椎名崎遺跡)もみられます。いずれも律令制に伴う、集落(郡・郷・里)基盤を作るための計画的な整備がおこなわれていたようです。当時のムラ作りの一端を垣間見るような情

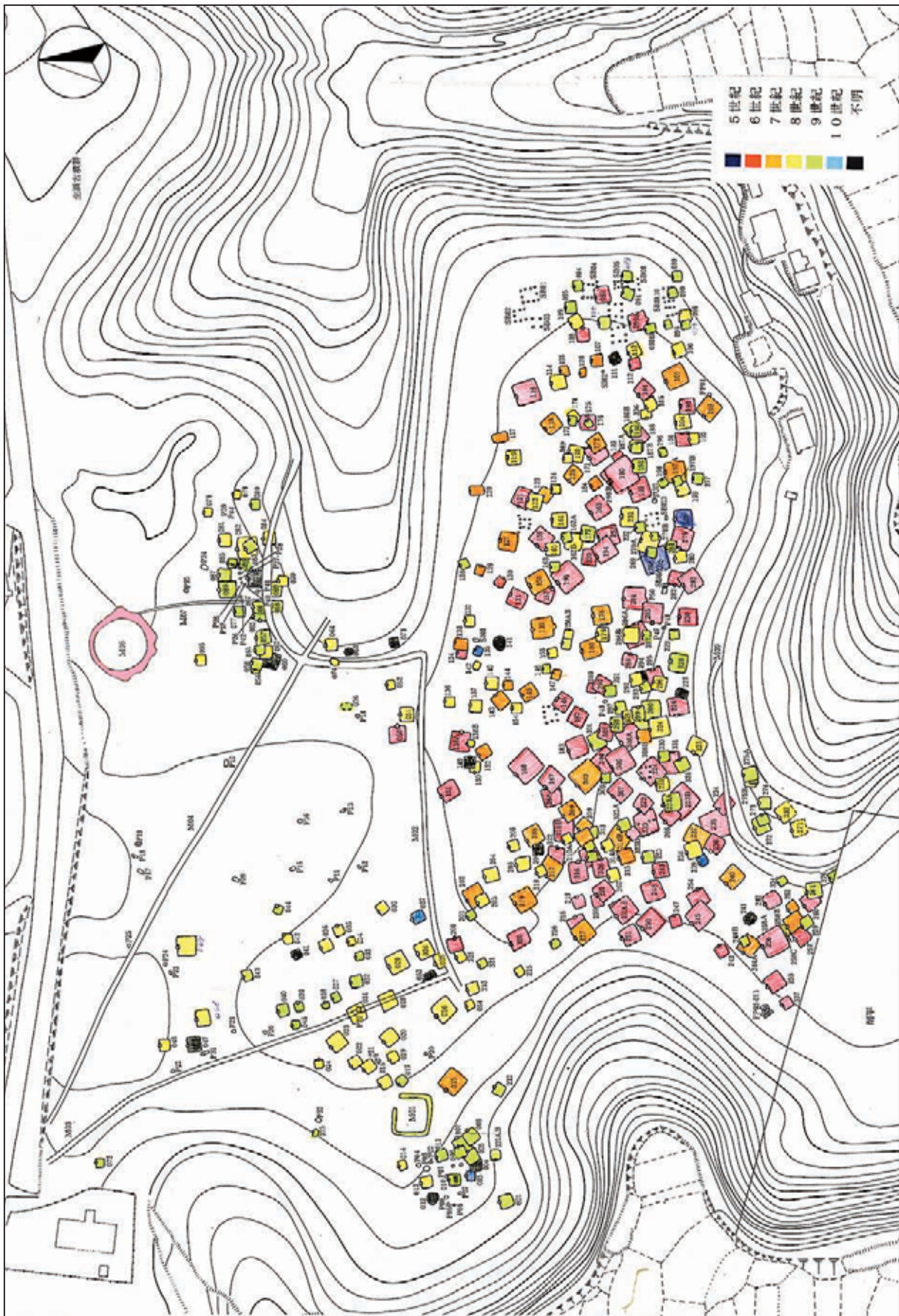


有吉遺跡(第1次) 全景

景が思い浮かびます。

その一方で、官衙・豪族・寺院などに関連する掘立柱建物跡群や生産遺構、文字資料(墨書土器)などが少ないこともおゆみ野地区の特色です。





集落の変遷(高沢遺跡: 5世紀から10世紀)

奈良・平安時代



高沢遺跡 297号跡~308B号跡



ムコアラク遺跡 整然と並ぶ住居跡



高沢遺跡 225号跡カマド



高沢遺跡 225号跡出土土器



高沢遺跡 286A・B号跡、287号跡



高沢遺跡 286B号跡出土土器(須恵器)

墨書土器・・・奈良時代も後半になると、東国にも文字が普及してきます。土器の器面に墨書きしたもので「墨書土器」と呼ばれ、おゆみ野地区では少し遅れて平安時代にはいると土器(坏形)に「矢古」、「万加」、「厨」、「大新家 (8世紀後半)」といった墨書が有吉遺跡・高沢遺跡などで発見されています。しかし、この時代に属する住居の数からみると多いものではありません。



高沢遺跡 坏にみられる墨書文字



有吉遺跡(1次) 円面硯



有吉北貝塚 016号跡



有吉北貝塚 016号跡出土土器



高沢遺跡 027号跡



高沢遺跡 027号跡等出土土器



バクチ穴遺跡 053号跡



バクチ穴遺跡 053号跡出土土器



城ノ台遺跡 025号跡(地下式坑)



城ノ台遺跡 025号跡出土土器

奈良・平安時代

西方からの搬入品……古墳時代中期から一部の人びとにのみ使用されてきた須恵器は産地の拡大とともに次第に需要も増大してきました。さらに、当時としては高級品でもあった灰釉陶器も東海地方からもたらされるようになります。他に役人の身分を示す帯金具が、椎名崎遺跡(椎名崎古墳群C支群)や高沢遺跡など数か所の遺跡から出土しています。



高沢遺跡 灰釉陶器



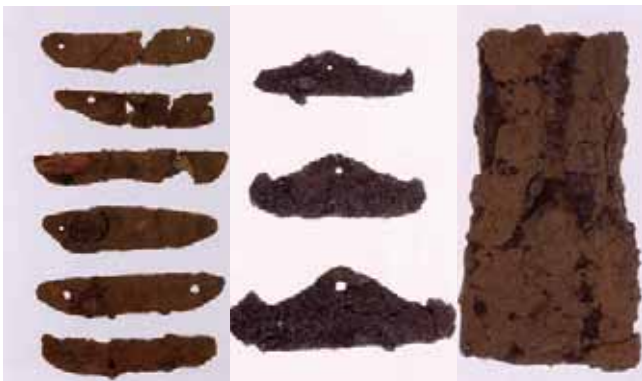
高沢遺跡 須恵器類



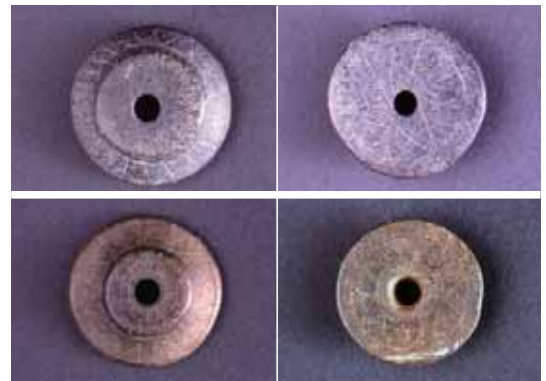
ムコアラク遺跡 獸足



高沢遺跡ほか帯金具類



高沢遺跡 鉄器類(穂摘具・火打金・鉄斧)



高沢遺跡 石製紡錘車

鉄製農具と土器の生産……9世紀後半になると、各地で鉄製農具が生産されるようになります。高沢遺跡・太田法師遺跡などでは小規模な鍛冶跡が発見されています。このことから農耕具の生産や修理がおこなわれていたことがわかります。また、城ノ台遺跡では10世紀後半頃の粘土採掘坑と土師器焼成窯が調査され、日常の什器である甕や坏などを生産していました。



太田法師遺跡 630号跡



太田法師遺跡ほか 生産された鉄器類と生産具



太田法師遺跡 (630号跡内鍛冶炉)



城ノ台遺跡 270号跡(粘土採掘坑)



城ノ台遺跡 256号跡(土器焼成坑)



城ノ台遺跡 173号跡(粘土採掘坑)



城ノ台遺跡 256号跡(土器焼成坑) 出土土器

おゆみ野の台地上では、この時代の遺跡は少なく僅かに有吉北貝塚や伯父名台遺跡で見られる程度です。人びとの生活域は谷の分岐点や海岸平野に面する台地に移っていきました。生活用品の主流となった焼き物は、以前の土師器・須恵器に替わり瀬戸・常滑^{せと となめ}などの陶器

類が普及し、大陸からは優美な陶磁器がもたらされました。墓制にも変化がみられ、上流階層に属する武士の間では供養にあたり^{いたび ほうきょういんとう}板碑や宝篋印塔といった石塔を建立した例がみられます。



伯父名台遺跡 国産陶器類



伯父名台遺跡 貿易陶磁器



有吉北貝塚 SK181号跡(土坑墓)出土和鏡



有吉北貝塚 SK181号跡(土坑墓)出土カワラケ



富岡古墳群 板碑



伯父名台遺跡 集落と台地整形部

近世のおゆみ野では有吉城跡などで、集落に隣接して畑地が営まれ、背後にひかえる山林から燃料となる薪たきぎや飼料用の草を採り、炭焼きなどもおこないました。さらに有吉北貝塚では畑地と山林の境界にシシ穴イノシシなどを

捕獲するためのおとしあな陥穴おとしあなが発見されています。他に近世の遺構として方形に土盛をした塚が築かれました。御塚台遺跡ぎょうにんづかの行人塚もその一つで、出土した銭貨は塚へのお供え品です。



有吉北貝塚 シシ穴跡



御塚台遺跡 行人塚全景



有吉城跡 SK15(土坑)出土陶磁器



御塚台遺跡 行人塚出土銭貨



有吉城跡 SE01(井戸跡)出土陶磁器



有吉城跡 SE01(井戸跡)

展 示 遺 物 一 覧

遺跡名	旧石器時代	縄文時代	弥生時代
神明社裏遺跡	局部磨製石斧1点、打製石斧1点、第1文化層3点、第2文化層13点、第3文化層2点、第4文化層8点、第5文化層5点		
太田法師遺跡	第1文化層第3ブロック石刃等7点、第1文化層第4ブロック接合資料等5点、第2文化層第8ブロックナイフ形石器等16点	前期浅鉢6点・鉢形1点	
春日作遺跡	削器1点、敲石1点、接合資料1点、細石刃35点、細石核3点		
六通神社南遺跡		尖頭器29点、削器等12点	
大膳野南貝塚		前期土器片12点	
大膳野北貝塚		前期鉢形1点・小型1点	
有吉北貝塚		中期深鉢3点・大型深鉢3点・有孔鏝付土器1点、磨製石斧13点、打製石斧8点、磨石6点、石皿1点、石鏝5点、石錐4点、異形石器3点、軽石製浮子2点、土錘7点、各種耳飾18点、土器底部1点、高師小僧1点、貝製品14点(貝輪4点、装身具9点、貝鏝1点)、磨貝3点、貝刃6点、骨角製品21点(装身具10点、骨鏝4点、釣針2点、牙斧5点)、石製装身具15点、骨角製装身具1点、糞石1式	
有吉南貝塚		中期深鉢1点、装身具(腰飾)1点、貝製品4点	
小金沢貝塚		中期深鉢2点、後期深鉢2点・注口1点・鉢形1点・土製品7点	
木戸作貝塚		後期深鉢2点・鉢形5点、土製品5点	
六通貝塚		後期深鉢1点・台付鉢1点・小型土器2点、晩期深鉢1点・鉢形2点、耳飾5点、土版2点、中空土製品1点、土偶8点、石斧類11点(磨製7点・打製4点)、砥石9点、玉類7点、原石1点、骨角製品10点、クジラ耳骨1点、傷痕付獣骨7点、赤彩付着貝殻1点、終末期土器群9点	壺口縁部1点、挟入石斧1点
有吉遺跡			環状石斧1点、壺口縁部1点
椎名神社遺跡			壺口縁部1点、甕片1点
バクチ穴遺跡		早期深鉢2点、前期深鉢1点、块状耳飾3点	中期土器片8点、後期甕2点・土器片1点
西ノ原古墳群			
富岡古墳群			
上赤塚1号墳			
鎌取遺跡			甕片1点
馬ノ口遺跡			
南二重堀遺跡			
椎名崎遺跡			
椎名崎古墳群B	第1文化層10点、第2文化層6点、第3文化層12点、第4文化層8点、第5文化層12点、第6文化層26点		
椎名崎古墳群C			
人形塚古墳			
神明社裏遺跡			
小金沢古墳群		終末期土器片5点	
高沢遺跡		早期深鉢1点	
ムコアラク遺跡			
城ノ台遺跡			中期壺1点・甕片2点
今台遺跡			
御塚台遺跡		早期深鉢1点	
六通遺跡			
六通金山遺跡	局部磨製石斧1点		
伯父名台遺跡			
有吉城跡			

古墳時代	奈良・平安時代	中・近世	遺跡名
			神明社裏遺跡
六鈴銅釧 1点			太田法師遺跡
			春日作遺跡
			六通神社南遺跡
			大膳野南貝塚
	土師器甕 2点・甌 1点・高坏 1点・坏 6点・鉢 3点	和鏡 1点(甜瓜双鳥鏡)カワラケ 4点	有吉北貝塚
	帯金具 1点		有吉南貝塚
			小金沢貝塚
	須恵器甕 1点		木戸作貝塚
			六通貝塚
			有吉遺跡
			椎名神社遺跡
			バクチ穴遺跡
土師器壺 1点			西ノ原古墳群
土師器壺 2点・器台 1点		板碑 1点	富岡古墳群
石枕 1点・立花 6点・管玉 6点・勾玉 5点・ガラス玉 4点・石製模造品 7点・鉄鎌 1点・鉄鎌先 2点・銅釧 1点			上赤塚 1号墳
土師器小型壺 6点・甕 1点・小型甕 1点・高坏 4点・碗 3点・石製模造品 40点(勾玉 24点・白玉 16点)ヤリガンナ 1点・鎌 1点・羽口 2点・台石 1点			鎌取遺跡
土師器壺 2点・小型壺 5点・甕 2点・小型甕 1点・高坏 3点・器台 3点・特殊器台 3点・土製品 5点・轡 1点・金銅製耳環 5点・石製模造品 8点・未成品 1点			馬ノ口遺跡
土師器小型壺 3点・甕 3点・高坏 2点・碗 5点・水鳥形土製品 1点	土師器甕 1点・甌 1点		南二重堀遺跡
須恵器 5点			椎名崎遺跡
金銅製耳環 4点	帯金具 6点		椎名崎古墳群B
埴輪 5点・玉類 70点(勾玉 5点・コハク玉 1点・丸玉 1点・管玉 4点・ガラス玉 7点・ガラス小玉 52点)			椎名崎古墳群C
銅釧 2点・玉類 507点(勾玉 13点・管玉 6点・コハク玉 28点・切子玉 4点・ガラス角玉 2点・その他丸玉小玉類 454点)			人形塚古墳
七獣形鏡 1点			神明社裏遺跡
	土師器甕 6点・坏 20点・高台付坏 1点・須恵器壺 1点・小型甕 1点・甌 3点・盤 1点・坏 25点・蓋 2点・灰釉陶器 6点・墨書土器 4点・石製紡錘車 2点・鉄製品 9点(穂摘具 5点・火打金 3点・鉄斧 1点)・帯金具 1点		小金沢古墳群
金銅製耳環 4点	石製紡錘車 1点・帯金具 1点・獣足 3点		高沢遺跡
	甕 9点・坏 30点・高台付坏 9点・帯金具 1点		ムコアラク遺跡
	帯金具 1点		城ノ台遺跡
	鉄斧 1点	銭貨 10点	今台遺跡
	鉄鉢形土器 1点		御塚台遺跡
須恵器 3点			六通遺跡
		貿易陶磁器 11点・国産陶磁器 6点・渡来銭 21点	六通金山遺跡
		陶磁器 15点・焙烙 1点	伯父名台遺跡
			有吉城跡

平成20年度 出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり

おゆみ野編

発行日 平成20年7月12日

編集・発行 財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
〒284-0003 四街道市鹿渡809番地の2

印刷所 株式会社 正文社

巡回展「房総発掘ものがたり」の開催は、平成20年度国宝重要文化財等保存整備費からの補助金(埋蔵文化財紹介・周知事業)を受けて実施しているものである。



平成20年度
出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり

— おゆみ野編 —